

学園 NEWS

食を考える会から  
特製クッキーを贈呈



3月9日、いいたて希望の里学園で、「飯館村食を考える会」から学園の卒業生へ、卒業祝い菓子贈呈式が行われました。今年はお祝いの気持ちを込めて、飯館村を型取った特製クッキーが贈られました。祝い菓子を受け取った卒業生を代表して渡辺凌駕さんが、「伝統として続いてきたこの贈呈式で地域の方の想いを知りました。地域のために何ができるのかを考えて過ごしてい

見事に村を型取った  
きたい」とあいさつしました。大豆とごまたっぷりクッキー。

学園 NEWS

「支援を返していこう」  
5年生が地震救援募金



3月10日、いいたて希望の里学園の5年生が、トルコ・シリア地震救援募金23万3,171円を飯館村社会福祉協議会に手渡しました。社会科で自然災害について学ぶ中、トルコ・シリア地震の被災地に関心を寄せ、募金活動を企画したそう。全校に募金を呼びかけた他、村役場などを訪れて支援を募りました。ずっしり重い募金箱を託した児童は「私達の周りにやさしい人がたくさんいることを知りました」「恩返し



いいたて希望の里学園 卒業式

3月13日、卒業式が行われ、5人の9年生が巣立ちの時を迎えました。今年の卒業生は、草野・飯樋・白石小学校それぞれの卒業式と閉校式、そしていいたて希望の里学園の開校式などを全て経験してきた学年です。また、仮設校舎やコロナ禍による制限など様々な困難も乗り越えてきました。卒業生を代表して礒山姫夢(ひな)さんが「培ってきた伝統をさらに発展させてほしい」と答辞を述べ、支えてくれたすべての学校関係者や家族、後輩たちへ感謝の気持ちを伝えました。式歌の合唱では、在校生も涙を流し、会場が大きな感動に包まれました。



学園 NEWS

交通安全標語応募で  
地域貢献活動に協力

各賞の代表が副賞の図書カードを受け取りました



3月20日、いいたて希望の里学園で、交通安全標語の表彰式が行われました。標語を募集したのは飯館ライオンズクラブです。児童生徒77人が作品を応募し、山田安土さん(5年)の「ちょっと待て 未来の光が 歩いてる」、高橋拓真さん(6年)の「気をつけてながら運転 事故の元」、橋本雪那さん(8年)の「眠いとき 無理に運転 やめようよ」の3点が最優秀賞に選ばれました。同クラブの長谷川長喜会長(宮内)が学園の協力に感謝し、表彰を行いました。

こども園 NEWS

「楽しかった!また来てね」  
ただじゅんさん公演



3月22日、「ただじゅん」こと舞台実演家で表現インストラクターの多田純也さんが、までいの里のこども園へ。コロナ禍以来、3年ぶりの公演です。和太鼓あそび、伝承あそび、演劇的な表現あそびなどが盛りだくさんに展開されると、子ども達は瞳を輝かせて歌ったり踊ったり、うちわで風を起こして無数の花紙を舞わせたり、「あそび」の世界に入り込んで楽しんでいました。公演の終わりには「楽しかった」「またやりたいね」と子ども達のはずんだ声が聞こえてきました。



までいの里のこども園 卒園式

3月17日に卒園式が行われ、10人の園児が、思い出深い園舎を巣立ちました。石川幸男園長から一人ひとりに修了証書が手渡されると、園児達は凛とした表情で、そして大きな声で「ありがとうございます」と答えました。また、保護者に花束を手渡したり、毎日の感謝をそれぞれの言葉で伝えたり、立派に成長した姿が見られる式となりました。歌を歌う場面では、感情があふれだし涙を流しながら歌う子もいました。園児たちの姿に、式を見守る保護者や先生方も涙を流し、感動的な卒園式となりました。

